

【中崎遊園地の歴史】

明石城跡は明治16年(1883)に民営公園となり、整備が進んでいたが、明治31年(1898)に御料地に編入されたため廃園となった。そこで明石町は観光客や地元民の遊楽する場所として、中崎の公園化を県に働きかけ、明治36年(1903)に中崎遊園地が開設された。

もともと中崎は白砂青松で淡路島を望む風光明媚な風景で知られていた。城主の数寄を凝らした別邸御茶屋もあり、秋は月に、夏は海水浴を楽しめる場所であった。東屋、腰掛け、茶店などの他、高級旅館も建ち並んでいた。

また大正6年(1917)の兵庫電気軌道(現山陽電車)の開通に合わせ「遊園地前駅」をつくり観光客誘致が図られた。昭和初期には近代的な錦江ホテルも開業した。この建物は昭和23年(1948)に播陽幼稚園として改装されたが、ホテルが幼稚園になるということで話題となった。中庭の池泉式日本庭園をそのまま園庭にしていたといわれている。

昭和23年(1948)には、水産博覧会が開催され、その後も花火大会や漫才大会のイベント、水族館の開業などで大いに賑わった。



中崎遊園地(絵葉書、明治後期～昭和初期、個人蔵)



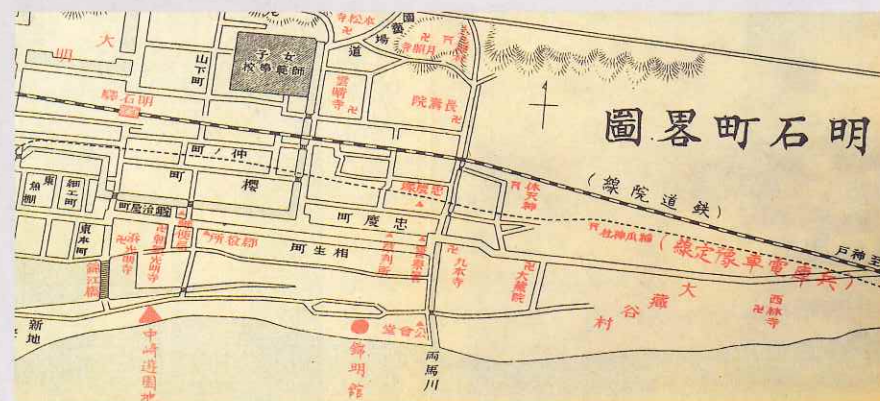
錦江ホテル(絵葉書、昭和初期、個人蔵)

【夏目漱石の講演】

中崎公会堂では、菊池寛や佐藤春夫も講演を行っている。公会堂の柿落しは明治44年(1911)8月13日の夏目漱石の「道楽と職業」という講演である。近代における職業の専門化が社会と個人に与える影響など、現代にも通じるテーマを論じている。

「明石という所は、海水浴をやる土地とは知っていましたが、演説をやる所とは、昨夜到着するまでも知りませんでした。どうしてああいう所で講演会を開く積りか、ちょっとその意を得るに苦しんだくらいであります。ところが来て見ると非常に大きな建物があって、彼処で講演をやるのだと人から教えられて始めてもっともだと思いました。なるほどあれほどの建物を造ればその中で講演をする人をどこからか呼ばなければいわずの宝の持腐れになるばかりであります。」

出典：夏目漱石「道楽と職業」『私の個人主義』（講談社、1978年）10頁より



出典：「須磨舞子明石附近略図・明石町略図(須磨舞子明石遊覧案内 全 附淡路岩屋案内)」(大正5年(1916)、明石市蔵)



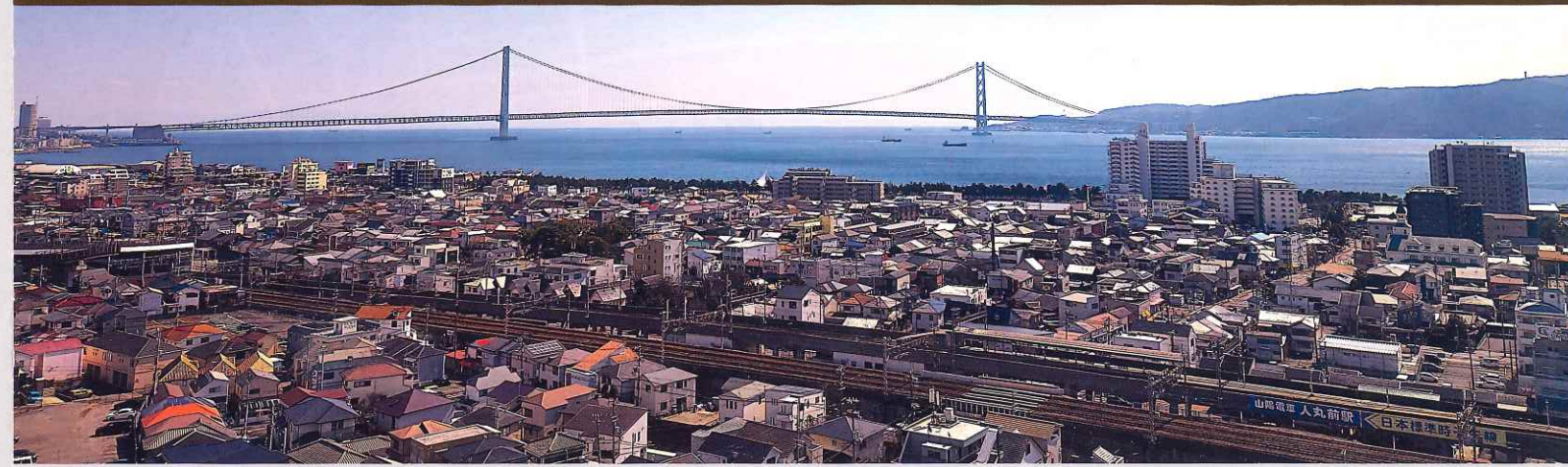
夏目漱石

出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」(<https://www.ndl.go.jp/portrait/>)

左の図には両馬川の西側に赤字で「公会堂」「錦明館」「中崎遊園地」の記載がある。大正6年(1917)開通の兵庫電気軌道(現山陽電車)の軌道予定線を確認できる。この頃に埋め立てが進んでいたはずの外堀も描かれている。

あかし歴史のまち
「文化財ウォーク」

「近代化」と「時のまち」を
物語る文化財を歩く



明石市立天文科学館の展望台からの明石海峡大橋

東経135度の日本標準時子午線の通るまち明石。
城下町東部の「近代化」と「時のまち」の歴史を
物語る文化財を訪ねてみましょう。



月照寺山門



明石市立天文科学館



日本中央標準時子午線通過地識標



中崎公会堂(旧明石郡公会堂)

モデルコース

- 明石市立文化博物館
徒歩3分
- 明石神社
徒歩7分
- 月照寺山門
徒歩1分
- 子午線標示柱
徒歩1分
- 柿本神社
徒歩3分
- 明石市立天文科学館
徒歩4分
- 神明国道子午線標識
徒歩3分
- 日本中央標準時子午線通過地識標
徒歩2分
- 中崎公会堂(旧明石郡公会堂)
徒歩5分
- 中崎遊園地ラヂオ塔

